

建築家の 往復書簡

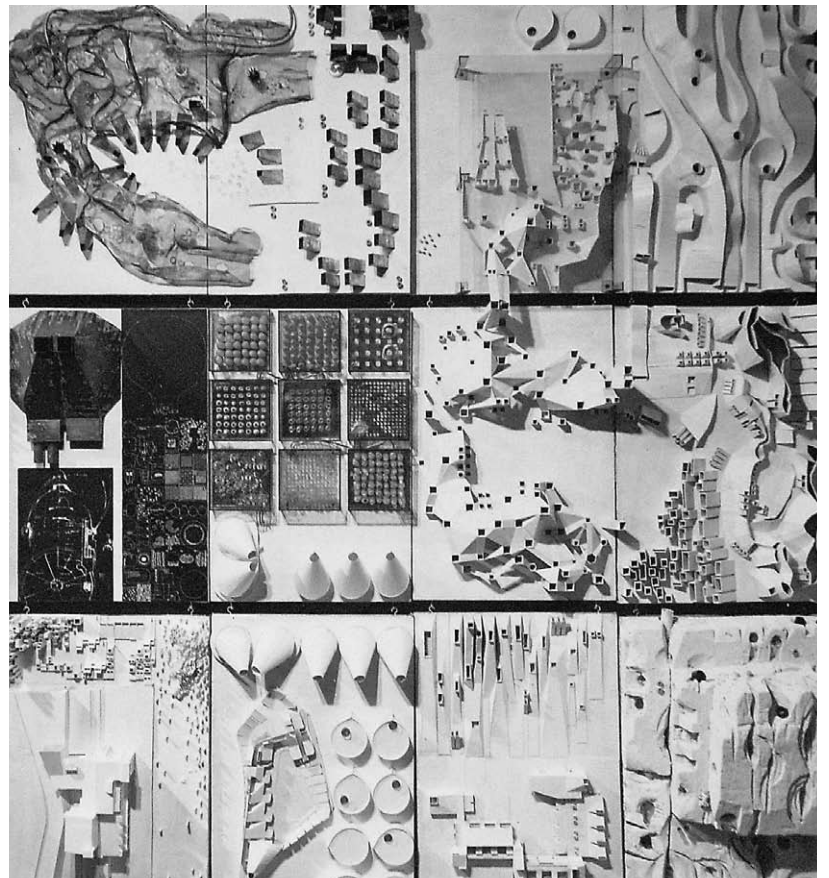
原広司 — 磯崎新

2
.....
「空間の文法」、
そして「時間の文法」……

磯崎
新様

お便りありがとうございました。ふたたび、半世紀前の初心の頃にもどり、あれこれと質問することが許されると思いますが、心が跳ります。

以下に申し上げることは、このたびの書簡のテーマとかがわっております。つまり、私は「数学」のまったくのアマチュアであり、建築固有のフィールドでしか、発表(プレゼンテーション)はできません。ただ、建築を始めた当初から、なんとなく現代幾何学風に、建築を構想する



Hiroshi Hara

原
広
司

傾向がありました。そのためか、自分が行ってきたことどもが、現代幾何学では、どのように説明されるのか、知りたいとも思いますし、幾何学の前線で何が起っているのかを知りたくもあります。

磯崎さんが、建築固有の世界に、こだわってこられたのは、よく解っているつもりですし、それが実践的課題であることも認識していますが、この機会に、もう一步踏みこんで、問いかけさせて頂きたいと思えます。

「有孔体の世界」[1965][撮影:小山孝]

北海道支社 Tel.011-330-1710 | Fax.011-370-1717 | 〒065-0008 札幌市東区北8条東10丁目1番1号
東北支社 Tel.022-301-9712 | Fax.022-301-9726 | 〒981-0933 仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台
首都圏統括支社 Tel.03-5541-7050 | Fax.03-5541-7129 | 〒104-0032 東京都中央区八丁堀三丁目10番5号 INAX東京ビル
関東統括支社 Tel.048-668-1227 | Fax.048-666-7047 | 〒331-0811 さいたま市北区吉野町一丁目23番6号
中部統括支社 Tel.052-310-1703 | Fax.052-310-1701 | 〒461-0005 名古屋市中区東桜一丁目4番16号
北陸支社 Tel.076-264-1710 | Fax.076-264-1755 | 〒920-0025 金沢市駅西本町一丁目15番26号
関西統括支社 Tel.06-6539-3500 | Fax.06-6539-3524 | 〒550-0012 大阪市西区新町1丁目7番1号
中国支社 Tel.082-850-3917 | Fax.082-850-3920 | 〒731-0113 広島市安佐南区西原六丁目11番8号
四国支社 Tel.087-815-3377 | Fax.087-815-3390 | 〒760-0079 高松市松縄町123番地
九州支社 Tel.092-471-1741 | Fax.092-471-1751 | 〒812-0007 福岡市博多区東比恵二丁目8番16号

●社名・住所の変更は、Faxまたはハガキで、最寄りの支社にご連絡ください。

INAX
For Precious Life

カ-RP180

9010937622

建築の固有性は、設計された建築自体あるいはその系列によってのみ説明される。

これは当然ですし、論議の対象にはならないでしょう。が、同時に、建築の固有性は、建築のモデルの構築によっても、説明されると思われれます。例えば、磯崎さんの有名な「廃墟」のドローイングが重要にして好例です。そして、具体的な建築と、構築された建築モデルの間には、応々にしてコレスポンシヴな関係があつて、時にこの往復運動が、建築固有の「世界のなりたち」をも表示することがあるのではないのでしょうか。

質問をより明確にするための手続きとして、私が固執してはいるものの実現できない「空間の文法」と呼んでいるモデルを例示させて下さい。それは、

〈空間は、一定領域における全体的現象である。〉

このスタイルをとります。「空間の文法」を書くぞ！と大口をたたいたりしますのは、ものを出来事あるいは現象に転化する（記号場）なつて成都の南、名も知れぬ鎮で、8・15に記者会見する、こんな旅程にのつていたのです。注意していたのに「水」にあたり、あげくに風邪。はやりの猪流冒ではないかと鼻水垂しながら疑っている、いいわけにもなりません。どうしてこんな阿呆をやるのか。貴兄のいう「空間の文法」加えるに「時間の文法」にかかわっていると思つています。私の癖は「現場」がないと何事もはじまらないと思ひ、込んでいること。すべては事後説明からはじまるのです。

聖地と呼ばれるもの、何故そうだったのか、これが最近のひとつの頃、つまり宋代になって、建築の革新が進行していた。入唐三度勸進僧重源が学んだのは、進行中の革新的な建築観だった、とあらためて考えました。仏堂の形式を変えずに、内部に大架構を組んで、その構造体は露出する。その梁（横架材）がみなぎらせる空間的強度は圧倒的なものです。身振いするようでした。

當麻寺の頃から、日本では小屋組をかくして天井を張るようになつた。いわゆる和様化が進行しました。表情は繊細になる。だが架構の力は消えてしまった。重源が抱いたいらだちのようなものが分かる気がしました。中国では単に宋代構造主義と呼ばれていますが、その荒っぽく、迫力ある内部空間こそが、美を超えて超越的、崇高性を獲得する手がかりだと彼は理解したのではないかと。まあ、それを感じただけでも、道に迷つたり、「水」にあつたこともいたし方あるまいと思つ次第です。

妙な隘路に入り込んでしまつたのですが、中国とつき合っていると、つくづく、この国は何ものかの過剰と、過激に走ると、過剰に走ると、そんな暴走が人々の趣味をつくり上げているとつくづく思うことがあるのです。あの宋様の過剰もそのひとつです。この間の文化大革命の暴走もそのひとつのようにも思えるのです。

何年前かに、マオ・グッズのコレクターと知り合いになりました。文化大革命当時の日用品を集めていました。この人も過剰の人らしく、何千冊という毛沢東語録、洗面器、化粧鏡、置き時計、何でもかでも語録がプリントされているものを数千の単位で集めていました。かつての国民党四川軍閥の根拠地であつた鎮に招待されました。一週間に買ったという高級幹部の家の一室を、八路軍が到達したときの状態で当時の机、ベッド、手洗い器などをつくりつくつてあつた。そのとき中庭での記録映画の映写会で天安門前広場に二百万人の紅衛兵が集合したシーンはまさに過剰でした。

宋代建築空間の崇高性、明清の装飾氾濫、と百万紅衛兵闘兵、これらは何ものかの過剰、という点で共通している。私はこれに巻き

る特殊な場を思いついたからです。実は、この場の記述法は、未だに解っていないので、低迷をつづけるばかりなのですが、仮に空間の粗い描出がなされたら仮定します。）

私たちは、空間についてあれこれ考えますから、空間はn次元で、n=∞になることもあつて、それら変数は、時間tという特殊な助変数で表記されるでしょう。

さらにやっかいなことに、
この空間には、登場人物(他者)が居て、時には、私も観測者として登場する。）

という仕組み。他者は、記号場として扱つても、「私に話しかけないで！」と、願うより他ありません。このフラジヤイルなモデルは、簡単に壊れてしまうのです。

以上は、ゆきがかりから、建築のモデルの話題とからめました。が、空間と時間についての、フラジヤイル印付定義であると考へて下さい。

私たち建築家は、いつもこんな過酷な思考を強いられている。もう

関心事です。単なる自然のままの場所が特別扱ひされるというのはそれが虚構であることの証拠でもあります。だけど、その虚構こそ誘われる。やっばりてかけて行きたくなる。
アポロンの神託を受けたテルフォイは、奇怪な土地。巨大な岩山が迫る崖に神殿や劇場がつくられた。五台山も中国仏教の聖地と呼ばれるからにはと期待していたのですが、何しろ広大で、一望のもとにという具合にはいかない。東西南北の台は三千メートル級の山、中台だけは小高い丘でまあ登れるけど、こちちは観光化して人また人という有様。せわしいだけで有難みがありません。

ここから数十キロはなれたところに禪院があり、唐代と金代(北宋)にハルマカたをアナーキーといふのかどうか。原さんの記憶が僕には光景としてまだもどつてない。だけど統制的なものをすべてを拒絶することを議論した記憶があります。この樊建川という男、とことんアナーキーではあります。聚落風に散在させたパビリオンでまず開館したが、国民党館と八路軍館と四川軍閥館、これに虐殺館が加わる。開館と同時にストップ命令が来る。毛沢東と蒋介石を同格に並べているのだから、政府は怒る。この男は数次にわたる国共合作こそが中国現代史だと考へている。しかし許認可の権限は政府にある。そのうち四川大地震。さっそく現地をまわり、壊れたものをいっさい合さし集めてくる。そして出来上つた展示館の壁をブチ破つた穴から崩壊現場を再現した光景をみせる。つくりものであることは間違いないが、そこにある瓦礫や壊れた家具はすべてほんもの、たしかに迫力だけはある。私たちがヴエニスビエンナーレでやったことの反復ではあります。が、ここは何だか、ひたすら生々しい。これが一気に評判になり、政府のおぼえも目だたく、しかも台湾問題が好転、先見の明があつたといわれ、いよいよ日軍館を、とこんな推移だつたことが分つてきました。

国共合作がなされた際、そのたびに敵であつたのは日本でした。日本は常に悪役を演じてきた。これは最近の中国テレビドラマの一貫した主題でもあります。
記者会見で、あなたはビストルの弾を送りつけられて、ナシヨナリストから脅されているそうではないか、という質問がきました。この案の設計は数年前に了つていたのだけど、日本では発表しなかった。先程の話は「靖国」の監督だつたらありえたかも知れないけど、まだ起つてはいませんが、と答える。まだ展示内容が組み立てられていない。日本軍の中国における十五年を展示することだけが決まつている。私にとつてはマオグッズのコレクターだつた男とのつき合いが、こんな具合に展開しているのです。何しろアナーキーです。私のもつとも共感する部分です。だけどこれは一歩ちがうと事件になる。「時間の文法」のよ

馬鹿馬鹿しくて、全て放り出して、「おい！設計だ！」となります。実は、このあたりが、建築の固有性と深くかかわつていふように思えるのです。

空間を状態としたとき、その状態の持続と変化が、「廃墟」や「プロセブリング」のテーマでした。磯崎さんの時間は、比較的長いと思われれます。それに対して、私は、微少な時間dtが誘起する変化を考へてきました。

おそらく、磯崎さんの時間は、単純な、計測可能な時間ではなく、意味が重層する歴史の時間でもあるように思えます。

持続と変化は、ベルグソン流ですが、建築固有のフィールドと相関するでしょう。いま、どんなふうにか考へておられるのでしょうか。

二〇〇九年七月三日

原広司

原広司の巻

ARATA ISUZAKI

磯崎新

の建物が残っている。佛光寺はここまで来る価値ありと思う建物でした。本堂にあたる東大殿は、ほぼ完璧な型の唐代建築。奈良平安の頃の原型が骨太に残っている。それだけでも満足していいくらいですが、私はその横にひそかに置かれた文殊殿に衝撃を受けました。七間三間のこの堂は元来室内に十本の柱が必要なのに、間引いて四本しかない。三スパンすつ飛ばしている。二〇メートルの単純な軸組み架構です。さすが後世に支柱を加えています。その木軸の迫力はすさまじいものです。

重源の天竺三様は宋様だけど、そんなモデルは中国にはない、というのが定説です。そつくりのモデルがみつからないから、重源オリジナルの建物が残っている。佛光寺はここまで来る価値ありと思う建物でした。本堂にあたる東大殿は、ほぼ完璧な型の唐代建築。奈良平安の頃の原型が骨太に残っている。それだけでも満足していいくらいですが、私はその横にひそかに置かれた文殊殿に衝撃を受けました。七間三間のこの堂は元来室内に十本の柱が必要なのに、間引いて四本しかない。三スパンすつ飛ばしている。二〇メートルの単純な軸組み架構です。さすが後世に支柱を加えています。その木軸の迫力はすさまじいものです。

重源の天竺三様は宋様だけど、そんなモデルは中国にはない、というのが定説です。そつくりのモデルがみつからないから、重源オリジナルの建物が残っている。佛光寺はここまで来る価値ありと思う建物でした。本堂にあたる東大殿は、ほぼ完璧な型の唐代建築。奈良平安の頃の原型が骨太に残っている。それだけでも満足していいくらいですが、私はその横にひそかに置かれた文殊殿に衝撃を受けました。七間三間のこの堂は元来室内に十本の柱が必要なのに、間引いて四本しかない。三スパンすつ飛ばしている。二〇メートルの単純な軸組み架構です。さすが後世に支柱を加えています。その木軸の迫力はすさまじいものです。

うなものが、こんな変転する事態の底にひそんでいることは分かるけど、私にとつては、まずは「現場」にいくこと、それから先は予測不能。歴史にひそむ時間に巻き込まれてみると観察者にとどまるわけにはいらない。何だかあぶなっかしい崖の端を渡っている感じ。これは一種の緊張感を与えています。宋代の建築架構が空間に緊張感を溢れさせるとすれば、マオ・グッズにはじまる時間にも奇妙な張力があるので。原さんがそれを記号場として観る。観られる関係のなかで解こうとされるなら、私は、それを時空場での宙吊りになつた身体性としてみたいと考へているのかも知れません。事件になるような「現場」にひきずられてしまふ。悪い癖です。

過剰にひきずられている。いずれ混沌に陥る過剰こそが、ひとつの生成の原理として、この大国の人々が身につけた武器かも知れないとも思っています。おかげで身体具合まで変調をきたしている。弾丸なんかもあの過剰をブチ破ることは無理じゃないかと思ひます。まだ鼻水垂らしています。

二〇〇九年八月二十四日

磯崎新

はらひろしー建築家一九三六年生まれ一九六四年、東京大学教務系大学院建築学博士課程修了。一九六九年、東京大学生産技術研究所一九九七年、退官、同名義教授。一九七〇年よりアトリエ・アイ建築研究所と設計共同。一九九九年より原広司・アトリエ・アイ建築研究所所属。

いそざきあらたー建築家一九三三年生まれ一九六六年、東京大学教務系大学院建築学博士課程修了。一九六三年、磯崎新・アトリエ設立。